

沿 革

○市など財団以外の動き ●財団(事業団)の動き

1987年 (昭和62年)	4月	○川崎市教育委員会社会教育部に(仮称)川崎市生涯教育振興事業団設立準備事務検討委員会が設置される。
1988年 (昭和63年)	4月	○名称を(仮称)川崎市生涯教育振興事業団から、(仮称)川崎市生涯学習振興事業団に改める。
1989年 (平成元年)	6月	○事業団設立構想を川崎市の政策調整会議に付議し、神奈川県教育委員会と折衝する。
	11月	○高橋清氏が川崎市長となる。
1990年 (平成2年)	2月	○出捐金2億円、運営補助金約1億円とする平成2年度予算案が市議会に出され、可決成立される。
	4月	○神奈川県教育委員会に財団の設立許可申請を行う。
	5月	●神奈川県教育委員会から「(財)川崎市生涯学習振興事業団」設立許可を受ける(事務室を教育文化会館に置く)。(平成2年5月22日)
	6月	●社会教育団体、市民団体、区民懇話会委員等を対象に「生涯学習フォーラム」を開催する。
	8月	●各区で「市民と語るつどい」を開催、設立についての理解を求める。
	9月	●第1回理事会を開催し、生涯学習情報の収集・提供事業を開始する。 ●高橋清市長が事業団の初代理事長となる。
	11月	●生涯学習情報誌「Stage Up」を創刊する。
1991年 (平成3年)	1月	●新百合21ビル内に多目的ホールならびに会議室を設置し、本部事務所も同ビル内に移転する。
	2月	○川崎市民の学習意識調査研究委員会により、「ゆたかな学習社会の構築をめざして-1」(川崎市民の学習意識調査報告書)発刊される。
	4月	●市民企画学習講座を始める。 ●資格取得支援講座を開設する。
1992年 (平成4年)	3月	○「ゆたかな学習社会の構築をめざして-2」(川崎市民の生活と学習-中高年者の“学習的生活”に関する調査報告書)発刊される。
	4月	●教育委員会からの受託事業として、文化イベント事業(クラシックコンサート等)を始める。
	7~8月	●地域間交流事業ふれあいサマーキャンプ事業を川崎市教職員会館との共催で開始する。(岩手県東和町、北海道中標津町)
	9月	●川崎市から運営の受託をしていた川崎市生涯学習情報システム「Stage Lineかわさき」の稼働を開始する。 ●学校5日制に対応した事業として「遊びの広場」を川崎市から受託し、事業を始める。
1993年 (平成5年)	3月	○「ゆたかな学習社会の構築をめざして-3」(市民館利用者の学習実態に関する調査報告書)発刊される。 ○川崎市生涯学習推進基本計画が発表される。
	4月	●事業団事務局の機構を整備し、室制(総務室、学習事業室、青少年活動事業室、スポーツ事業室)を施行する。学習事業室ならびに青少年活動事業室を教育文化会館内に移す。 ●川崎市体育館、幸スポーツセンター、石川記念武道館、麻生スポーツセンター、青少年の家、八ヶ岳少年自然の家、黒川青少年野外活動センター、青少年創作センターの管理運営を受託する。
	7月	●川崎市教育人材センターを(財)川崎教職員会館、(財)川崎市立学校教職員互助会とともに設立する。

	7～8月	●ふれあいサマーキャンプ事業を、新たに宮崎県日向市他2町5村においても実施する。
	9月	●生涯学習情報誌「井戸端会議」を創刊する。 ●かわさき市民アカデミー設置規則を設け、学長に高橋清(川崎市長)、学長代行に篠原一(東京大学名誉教授)を選出する。
	10月	●川崎生涯学習情報システム「StageLineかわさき」のタッチ式端末「COMS」を初めて第3庁舎に導入する。 ●市民の、継続的、専門的な新しい学習機会として「かわさき市民アカデミー」を開講する。(研究系、表現系、川崎学の講座と演習)
1994年 (平成6年)	4月	●川崎市教育委員会から「学校施設開放事業」を受託する。 ●かわさき市民アカデミー事業の拡充のため、学習事業室を小杉分室(中小企業婦人会館内)ならびに河原町分室(河原町小学校内)に開設する。 ●かわさき市民アカデミーに生活系の講座を開設する。
	5月	○かわさき市民アカデミーに自治組織「友の会」が結成される。
	7月	●東和町グリーンビレッジを借り上げ、農業体験の場として提供を開始する。
	8月	●ふれあいサマーキャンプ事業を長野県富士見町においても実施する。
	9月	●かわさき市民アカデミー第1回学園祭を開催する。
1995年 (平成7年)	4月	●中小企業・婦人会館内に市民アカデミー専用教室を開設する。 ●とどろきアリーナ(8月開館)の管理運営を受託する。それにともない、スポーツ事業室の事務室を同アリーナに設置し、専任の室長を配置する。 ●学習事業室から分離して学習情報室を設置する。また、青少年活動事業室を河原町分室に移し、指導主事を配置する。 ●寄附行為を改正し、専務理事の職を設置する。
	5月	●陶芸教室を青少年創作センターで開設する。
	9月	●かわさき市民アカデミー第1回修了式を開催する。
	11月	●事業団設立5周年記念式典を新百合21ビルにて開催する。
1996年 (平成8年)	3月	○かわさき市民アカデミー修了生を中心に、「川崎市民フロンティアの会」が結成される。
	7月	●ふれあいサマーキャンプ事業を、子ども海洋教室として宮崎県北浦町においても実施する。
1997年 (平成9年)	4月	●高津スポーツセンター(7月開館)の管理運営を受託する。 ●文化イベント事業について、財団法人川崎市文化財団に移管される。
	9月	●高津市民館に生涯学習情報コーナーを設置する。
	10月	●かわさき市民アカデミー夜間部講座を開設する。
1998年 (平成10年)	8月	●ふれあいサマーキャンプ事業を、北海道岩見沢市においても実施する。
	9月	●かわさき市民アカデミー5周年記念式典、並びに記念講演会を開催する。
	10月	●神奈川県労働福祉会館の移譲を受け「川崎市生涯学習プラザ」の名称のもと、川崎市生涯学習振興事業団が借り受ける。
	11月	●川崎市生涯学習プラザ開設記念式典を開催する。
	12月	●生涯学習の拠点として川崎市生涯学習プラザの施設提供を開始する。 ●スポーツ事業室を生涯学習プラザに移転する。
1999年 (平成11年)	2月	●生涯学習情報誌「井戸端会議」、第19号で終了する。
	10月	●地下1階食堂、調理室跡を陶芸教室用として実習室に改修。陶芸窯2台、電動ロクロ、作業台等を設置する。
	11月	●緊急雇用対策2事業を健康福祉局と教育委員会から受託し、教育文化会館内の学習事業室を川崎分室とし、生涯現役支援センターを併設する。 ○川崎市公共施設利用予約システム「ふれあいネット」が稼働し、既存の川崎市生涯学習情報システム「StageLineかわさき」を併合する。

		<ul style="list-style-type: none"> ●市民ミュージアムと岡本太郎美術館のミュージアムショップ運営を川崎市から受託し事業を開始する。 ●新百合分室第2会議室の定員20名を40名にリニューアルする。
2006年 (平成18年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○日本民家園、青少年科学館、岡本太郎美術館が市の直営となる。 ●市民ミュージアムの事業受託に伴い、財団の組織を改編し市民ミュージアム内に財団の学芸室を設置する。 ●指定管理者制度の導入に伴い、青少年の家、子ども夢パーク、宮前スポーツセンター、麻生スポーツセンター、大山街道ふるさと館の指定管理者となる。
	8月	●夏休み子ども学習講座「キッズセミナー」を開設する。
	10月	●財団のホームページを完全リニューアルする。
2007年 (平成19年)	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○新百合21ビル内の財団管理施設を財団法人川崎市文化財団に移管する。 ○NPO法人かわさき市民アカデミーが設立されてアカデミー事業の一部を委託する。
	7月	●生涯学習財団・生涯学習プラザからの情報紙「Kパル通信」を創刊する。
	8月	●ふれあいサマーキャンプ事業を島根県益田市においても実施する。
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ●青少年創作教室を開設する。 ●シニア活動支援事業「小学校のPC活用授業のアシスタント養成講座」を開設する。
2008年 (平成20年)	1月	<ul style="list-style-type: none"> ○かわさき市民アカデミーの設置規則等の改正が理事会において承認される。 ●(財)川崎市生涯学習財団のロゴマークの発表及び表彰式を行う。
	2月	●学習情報室を総務室企画広報担当に、教育人材センターを事業推進室事業推進担当にそれぞれ統合する。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ●教育文化会館、高津市民館の情報コーナーを廃止し、各館に移管する。 ○青少年の家、子ども夢パークの事務所管理局が教育委員会から市民・子ども局に移管される。 ○かわさき市民アカデミー学長が和田あき子に代わる。
	5月	●(財)川崎市生涯学習財団の理事長が小宮山健治に代わる。
	8月	●ふれあいサマーキャンプ事業を沖縄県那覇市においても実施する。
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習アドバイザー認定委員会を設置する。 ●シニア活動支援事業「環境学習アドバイザー養成講座」を開催する。
2009年 (平成21年)	2月	●第1回シニア活動シンポジウムを開催する。
	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○川崎市職員研修所が生涯学習プラザ2階に移転する。 ●非常勤嘱託職員に主任制度を導入する。 ●NPO法人「カンアオイ」と共同運営事業体を組織し、川崎市有馬・野川生涯学習支援施設の指定管理者となる。 ●NPO法人「教育活動総合サポートセンター」と共同運営事業体を組織し、川崎市大山街道ふるさと館の2期目の指定管理者となる。 (※1期目は財団のみ)
	5月	○川崎市有馬・野川生涯学習支援施設が開館する。
	7月	●公益法人移行検討準備委員会を設置する。
2010年 (平成22年)	3月	<ul style="list-style-type: none"> ●理事会及び評議員会で、「公益法人移行について」が決議される。 ○川崎市職員研修所が生涯学習プラザ2階からいさご会館(現・第4庁舎)へ移転する。
	4月	○川崎市が市からの派遣職員6名を引き上げる。
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ●派遣職員引き上げに伴い、常勤嘱託職員6名を配置する。 ○NPO法人かわさき市民アカデミーの理事長に藤嶋昭東京理科大学学長が就任する。

	6月	●第1回公益法人移行検討委員会を開催する。
	7月	●創立20周年記念誌編集委員会を発足する。
	8月	●地域間交流事業で和歌山県古座川町から小学6年生22名が来市する。
2011年 (平成23年)	3月	●経営改善計画(平成23年度～平成25年度)を策定する。 ●宮前スポーツセンター・麻生スポーツセンターの指定管理選定がされず、指定管理を終了する。 ●受託事業である市民ミュージアムと岡本太郎美術館のミュージアムショップの運営事業を終了する。
	4月	●NPO法人「教育活動総合サポートセンター」と共同運営事業体を組織し、川崎市青少年の家の2期目の指定管理者となる ●NPO法人「フリースペースたまりば」と共同運営事業体を組織し、川崎市子ども夢パークの2期目の指定管理者となる。 ●かわさき市民アカデミーの全ての講座とワークショップがNPO法人かわさき市民アカデミーによる運営に移行する。NPOとの協働となる。 ●シニア活動支援事業「地域協働講座」をアカデミー協働事業として開設する。 ●第1回公益法人移行実施に向けた検討委員会を開催する。 ●(財)川崎市生涯学習財団創立20周年記念誌を発行する。
	5月	●Kパル通信を終了し、「かわさきの生涯学習情報(KSJ)」を創刊する。
	7月	●理事会及び評議員会で「公益法人移行申請内容」が議決される。 ●こども文化センター及びわくわくプラザ職員の研修事業を川崎市から受託する。
	8月	●神奈川県へ公益法人移行申請書類の事前審査を提出する。
	12月	●神奈川県へ公益法人移行電子申請による正式申請を行う。
2012年 (平成24年)	2月	○神奈川県公益認定等審議会から答申が出る。
	3月	○神奈川県知事から公益財団法人の認定書が交付される。 ●有馬・野川生涯学習支援施設の指定管理選定がされず、指定管理を終了する。
	4月	●公益法人移行の登記を行う。(平成24年4月1日登記) ●生涯学習プラザ施設利用のメールでの申し込みを開始する。 ●「かわさきの生涯学習情報(KSJ)」を隔月刊に加え「春号」を発行する。 ●公益財団としての第1回理事会及び評議員会を開催する。
	5月	●(公財)川崎市生涯学習財団の理事長が金井則夫に代わる。 ●「キラリ☆文化教室」を開始する。
	6月	●「ランチタイムロビーコンサート」を開始する。
	10月	●「かわさきの生涯学習情報(KSJ)」に「秋号」も加えて発行する。
2013年 (平成25年)	1月	●「特別支援教育ボランティア養成講座」および派遣事業を開始する。
	4月	○かわさき市民アカデミー学長が太田猛彦に代わる。
	6月	●「なかはらママカフェ in 生涯学習プラザ」を開始。(中原区役所こども支援室共催) ●中学校の生徒職業体験を受け入れる。(宮内中学校2名)
	8月	●サマーキャンプ「和歌山県古座川コース」が開始から10年、記念イベントを実施する。
	11月	●財団のメールマガジンの読者登録と配信を開始する。 ○福田紀彦氏が川崎市長となる
	12月	●指定管理施設の川崎市子ども夢パークが10周年記念フェスタを開催する。 ○かわさき市民アカデミー開学20周年記念フェスタ及び記念パーティー開催される。

<p>2014年 (平成26年)</p>	<p>3月 4月 5月 7月 8月 10月 11月 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習プラザ303研修室のコンピュータを入れ替える。 (Windows8.1、11台) ●NPO法人「教育活動総合サポートセンター」と共同運営事業体を組織し、川崎市大山街道ふるさと館の3期目の指定管理者となる。 ●生涯学習プラザの施設設備の料金を改定する。(消費税8%に対応) ●ダンウェイ(株)と共催による「ICT治具を使ったホームページ作製教室」を実施する。 ●星槎大学が教員免許更新講座を、生涯学習プラザを利用して開催を始める。 ●財団ホームページの3回目の大幅リニューアルを実施する。 ●地域の寺子屋事業モデル実施「寺子屋ひよし」に参画する。 ○下村博文文部科学大臣がフリースクール構想の一環として、指定管理施設川崎市子ども夢パークを視察訪問される。 ●生涯学習プラザの各フロアに災害時の特設公衆電話回線を設置する。 ○「かわさき子どもの権利の日のつどい」が、指定管理施設子ども夢パーク「こどもゆめ横丁2014」と、同パーク内にて同時開催される。 ●川崎市が行う「寺子屋先生養成講座」に協力実施する。
<p>2015年 (平成27年)</p>	<p>3月 4月 6月 10月 12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習プラザロビーのソファをロビーチェアに入れ替え、併せて情報コーナーも模様替えする。 ●「かわさきの生涯学習情報」の「講座・イベント情報」簡易検索システムを稼働する。 ●生涯学習プラザ402フィットネスルームの料金を改定する。 ●「寺子屋先生養成講座」を川崎市から受託し開始する。 ●川崎市市民放送「かわさきFM」にて情報提供を開始する。 ●中原区寺子屋ネットワークに参画する。 ○「寺子屋すみよし」が開設される。 ●公用車を入れ替え、納車される。 ●住居表示変更により、今井南町28番41号に変更となる。
<p>2016年 (平成28年)</p>	<p>1月 2月 3月 4月 7月 8月 9月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●かわさき市民活動センター主催の「ごえん楽市」に初参加。 ●川崎市教育委員会主催の「公開講座体験 in アトレ川崎」に参加。 ●文化教室「英語であそぼう」が、イツコムの取材を受ける。 ●生涯学習プラザのホームページからの施設予約ページをリニューアルし、運用を始める。 ●川崎市青少年の家、川崎市子ども夢パークにおける管理委託料に伴う消費税の誤算定問題(11月発覚)が解決する。 ●川崎市青少年の家の指定管理選定がされず、指定管理を終了する。 ●ランチタイム・ロビーコンサートが、「音楽のまち・かわさきーミュートンチャンネル」で映像配信される。 ●「かわさきの生涯学習情報」の「講座・イベント情報検索システム」をリニューアルし、稼働する。 ●JTBパブリッシング発行の「るるぶ武蔵小杉」に財団提供の写真が掲載される。 ●NPO法人「たまりば」と共同運営事業体を組織し、川崎市子ども夢パークの3期目の指定管理者となる。 ○川崎市がシンボルマークを変更する。 ●生涯学習プラザの冷房システム故障のため、対応に追われる。 ●ホームページのウェブアクセシビリティ対応を進める。

<p>2017年 (平成29年)</p>	<p>1月 2月 3月 4月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●会議室の夜間利用割引を実施（3月まで） ●かわさき市民活動センター主催の「ごえん楽市」に参加。 ●生涯学習プラザのホームページからの施設予約ページを再リニューアルする。 ●情報紙「かわさきの生涯学習情報（KSJ）」の発行を休止する。 ●市民ミュージアム学芸業務の受託を終了する。これに伴い、学芸室を廃止する。 ○川崎市が「ふれあいネット」での生涯学習情報の提供を終了する。 ●「ふれあいネット」での生涯学習情報提供の終了に伴い、委託されていた情報入力・相談業務を終了する。 ●川崎市から「生涯学習情報提供事業」の委託を受け、「ふれあいネット」の情報を財団の生涯学習情報提供システムに移管する。 ●303研修室を303会議室に変更する。
--------------------------	---	--